

大阪府大阪狭山市における MIM の取組

I 大阪狭山市における教育環境・状況

1 自治体における基礎情報（平成 26 年 5 月 1 日現在，人口を除く）

- (1) 人口 57,820 人
- (2) 学校数 市立小学校 7 校，市立中学校 3 校
- (3) 児童・生徒数 小学校 3,277 人，中学校 1,649 人
- (4) 通級指導教室および特別支援学級の設置状況

① 小学校

通級指導教室

情緒障害 4 校，4 教室，86 名

特別支援学級

弱視 1 校，1 学級，1 名

知的障害 7 校，8 学級，33 名

肢体不自由 4 校，4 学級，7 名

病弱・身体虚弱 2 校，2 学級，4 名

自閉症・情緒障害 6 校，6 学級，25 名

② 中学校

通級指導教室

情緒障害 1 校，1 教室，23 名

特別支援学級

知的障害 3 校，3 学級，8 名

自閉症・情緒障害 3 校，4 学級，16 名

- (5) 特別支援学校の設置状況：なし

2 大阪狭山市における発達障害関連の施策

(1) 文部科学省の委託事業

「発達障害の可能性のある児童生徒に対する早期支援研究事業」

実施期間：平成 26 年 4 月～平成 28 年 3 月

概要：全小学校 7 校で実施。学習面や行動面で何らかの困難を示す児童生徒が学校生活に適応しやすいように，指導方法の改善、早期支援の在り方について，医師や学識経験者が学校と直接かわり，教員と一体となって研究を行う。本事業を受け，大阪狭山市発達障がい実践研究会を立ち上げ，大阪狭山市内全小学校が各校の重点テーマに基づき，通級指導教室に ICT 機器や教材・書籍等を配備。通級指導教室のない 3 校には，人材を配置して個別指導教室を立ち上げ，子どもへの支援に取り組みながら研究を進めている。

(2) 大阪府の委託事業

「通常の学級における発達障がい等支援事業」

実施期間：平成 25 年 4 月～平成 27 年 3 月

概要：大阪狭山市立第三中学校区で、幼稚園 1 園・小学校 1 校・中学校 1 校がモデルとなり、アドバイザースタッフ（大阪大谷大学教授小田浩伸先生）や、サポートチーム（大阪府教育委員会・大阪府教育センター指導主事）の指導助言を得ながら幼稚園や通常の学級においてすべての子どもにとって「わかる・できる」授業づくり・学級集団づくりに関する実践研究を行っている。

(3) 大阪狭山市独自の事業

大阪狭山市教職員研修「発達障がい基礎講座」

実施期間：平成 26 年度

概要：各中学校区（3 校区）において、それぞれ実施。狭山中校区では 6 月、南中校区では 7 月、第三中学校区では 10 月に実施。

講師：和歌山大学教育学部特別支援教育学教室教授小野次朗先生

参加対象：小・中全教職員

内容：教育現場で知っておくべき、発達障がいの基礎的な知識から最新の研究、支援の手立て、MIM の考え方について研修。

3 大阪狭山市における学力向上関連の施策

(1) 文部科学省の委託事業：なし

(2) 大阪府の委託事業

「スクールエンパワーメント推進事業」

実施期間：平成 25 年度～29 年度

概要：開かれた学校づくりを推進し、学校と保護者・地域を「学び」でつなぐことで、中学校の学力向上をめざすとともに、市町村の学力向上の取組を活性化させることを目的とした事業。市内中学校 1 校で実施。

(3) 大阪狭山市独自の事業

① 多層指導モデル（MIM）による小学校低学年の異なる学力層に応じた指導

概要：平成 24 年度（1 校）から平成 25 年度（4 校）はモデル校で実施。平成 26 年度から全小学校 7 校で実施。

② 学校づくり応援事業

概要：大学の 2 名の教員や校長経験者などが学校を巡回し、授業や学校の取組における指導・助言や、ICT 機器の活用および推進を支援する。平成 23 年度は 1 校、平成 24 年度は 2 校、平成 25 年度は 4 校、平成 26 年度は 4 校で実施。

③ ICT 活用推進事業

概要：デジタル教材とプロジェクター等を配備し授業改革に取り組む。

平成 25 年度実施には 2 校、26 年度は前年度 2 校の継続と新規 4 校で実施。

- ④ 英語教育支援事業
概要：大阪狭山小学校英語活動支援の会との協働で、小学校の外国語活動の充実を図る。
- ⑤ さやまっ子ティーチャー
概要：全校にさやまっ子ティーチャーを配置し、個別支援等、学校の状況に応じた活用で、学習に遅れがちな子どものサポートの充実を図る。市内の小・中学校の授業に入り、教員と協力して子どもたちの学習支援を行う。週 3 日～5 日、1 回 4 時間程度での勤務。資格等は特に必要なし。選考面接を実施し、採用後研修を実施して実践へ入る。
- ⑥ 学習支援チューター
概要：放課後や長期休業中の学習支援のため、大学生や市民をチューターとして活用し、自学自習力の育成をめざす。
- ⑦ 非常勤講師の配置
概要：学力向上や生徒指導等の課題に対応するため、中学校 1 校に非常勤講師を配置する。
- ⑧ 小学校用教材作成
概要：家庭や学校の業間などで、継続的に学習に取り組むための小学校用手づくり教材を作成する。自学自習プリント教材集（解答付で教科は国語・算数）で、授業の予習・復習、家庭学習でも利用できるように編纂されている。各小学校教職員、学校支援アドバイザー（教育委員会の嘱託職員 2 名）、指導主事で作成。

4 発達障害のある子ども等への支援のリソース

(1) 支援員や巡回相談等の人的支援

個別指導教室の設置

概要：人材配置による個別指導教室を設置。文科省事業（「発達障害の可能性のある児童生徒に対する早期支援事業（平成 26 年度～27 年度）」により、小学校 7 校のうち、国の制度による通級指導教室が設置されていない 3 校について人材を配置し個別指導教室（教育・支援の内容・形態は通級指導教室と同じ）を設置。発達障害等で支援の必要な児童に対する取り出しによる個別の支援を行っている。

(2) 教材等の提供といった物的支援

全小学校への物品、書籍等の提供。文科省事業（「発達障害の可能性のある児童生徒に対する早期支援事業（平成 26 年度～27 年度）」により、全小学校の全教室・支援学級に、時間の経過とともに扇形が減っていくことで残り時間のわかるタイムタイマーを設置。さらに、全小学校の通級指導教室（3 校は文科省事業による個別指導教室）に、ICT 機器（タブレット、ノートパソコン、

プリンタ等) や学習用教材を配置。

(3) 公的な相談・指導機関

① 大阪狭山市子育て支援センター 「ぼっぼえん」

② 大阪狭山市基幹相談支援センター

概要：本市の社会福祉協議会が運営する、障害児・者の生活や福祉サービス等、全般にわたる相談支援窓口としての機能をもつ機関。

II 大阪狭山市における MIM の取り組み

1 MIM に取り組むことになった経緯

平成 23 年度に児童の実態把握を行った。全児童数 792 名の A 小学校において、発達障害を含め、気になる児童の実態把握を記述式で実施。約 18% の児童が、気になる児童としてあがってきた。

平成 24 年度 A 小学校における「気づきのチェックリスト」* (小野ら, 2012) 等を用いた児童実態把握。上記のチェックリストに加え、文科省の「児童・生徒の理解に関するチェックリスト」により実態把握を行ったところ、単独例も重複例も含め「LD 疑い」が 8.2%、「ADHD 疑い」が 5.4%、「HFASD 疑い」が 2.7% の割合で通常の学級に在籍していた。その中で学習に関する困難、特に学習の基盤となる「読みの力」に困難を持つ児童に対しては、学級の中での配慮として児童への負担感を軽減するにとどまっておらず、LD に対する個別支援まで至っていないということが、2 年間の実態把握からわかってきた。そこで、A 小学校で MIM を導入することになった。

平成 25 年度には、市内 4 校に MIM を拡大。平成 24 年度の実態把握の結果から、通級指導教室が設置されている学校を中心として、市内の 4 校に MIM を拡大。

平成 26 年度には、市内全校で MIM を導入。文科省の、「発達障害の可能性のある児童生徒に対する早期支援・教職員の専門性向上事業」との関連においても MIM に取り組むこととなった。

*「通常の学級に在籍する発達障害のある児童への早期気づき『気づきのポイントシート』作成の試みを通して」小野次朗, 庄司清弥, 和歌山大学教育学部教育実践総合センター 紀要, 22 巻, 177-188.

2 MIM に関する実施計画

(1) 平成 24 年度 A 小学校 1 年生 4 クラスを対象に実施。

(2) 平成 25 年度 市内小学校 4 校 1 年生 12 クラスを対象に実施。

概要：小学校 1 校では、2 年生 4 クラスにおいても MIM-PM を隔月で実施。

さらに、2 年生では、宿題としてのプリントの実施、ことば絵カードをテレビに映して練習、カタカナの動作化、・MIM-PM を練習プリントとして実施 (やり残した問題を練習として使用)、新出漢字指導の際に読みの動作化を実施。

(3) 平成 26 年度 市内全 7 校の 1 年生全 17 クラスで MIM を実施。

概要：市内 4 校の 2 年生 12 クラスは、MIM-PM を隔月で実施。その他、通級指導教室担当者会を利用した各校における MIM の交流。また、MIM 担当者会を年 3 回実施。MIM 担当者会では、各校の取組の状況や課題を共有し、より効果的な MIM 指導の在り方について研究を推進する。MIM 担当者は、26 年度については、各校の通級担当教員が務めている。特に校務分掌として位置づけられていない。ただし、今後はこの点についても考えていく必要がある。MIM 担当者は、MIM-PM の実施・教材の管理・データの管理・MIM-PM の実施準備（印刷）などを行っている。さらには、推進のためのアドバイザー役を務めていた。平成 27 年度は、平成 26 年度の反省に基づき（通級担当者が務めている MIM 主担の指示を待つかたちになりがちなので）、1 年生の担任の中で主担者をきめる形にしたいと考えている。・・・MIM 実施に関する方針（資料 1 参照）

3 MIM に関する事業における行政（教育委員会等）の具体的役割

- (1) MIM による具体的な指導方法を全小学校に普及するための、各小学校における研修会の実施。（講師：和歌山大学教授、小野次朗先生、本市子ども理解コーディネーター、木村志保先生）
- (2) MIM 担当者会（年 3 回）を開催し、各校の取組の状況や課題を共有し、より効果的な MIM 指導の在り方について研究を推進する。
- (3) MIM 指導パッケージの全小学校への配布。
- (4) MIM の指導やアセスメントである MIM-PM に必要な教材づくり・結果処理のための機材（パソコン・プリンタ等）や消耗品等の配置。
- (5) 学校だより等による、小学校保護者への MIM 指導の概要の周知。
・・・年度初めに各学校が保護者への理解啓発用に配布する MIM の説明（資料 2 参照）

4 MIM に関する研修

平成 24 年度

A 小学校での実施

1 回目研修：日時：平成 24 年 5 月 1 日

講師：小野次朗先生（和歌山大教授）

河崎靖子先生（和歌山大学大学院生）

木村志保先生（本市子ども理解コーディネーター）

対象：A 小学校 1 年生担任・学年コーディネーター・支援教育
部員

内容：MIM とは。本校における実施計画。MIM-PM の演習

2 回目研修：日時：平成 24 年 7 月 2 日

講師：小野次朗先生・河崎靖子先生・木村志保先生

対象：A 小学校全職員

内容：MIM とは。教材の紹介。MIM-PM の演習

平成 25 年度

MIM 担当者会議

日時：平成 25 年 4 月 10 日

講師：小野次朗先生・河崎靖子先生・木村志保先生

対象：全小学校管理職・MIM 担当者・1 年生担任

内容：MIM とは。指導内容。MIM-PM の演習

導入に関する研修

(C 小学校) 日時：平成 25 年 4 月 22 日

講師：小野次朗先生・河崎靖子先生・木村志保先生

対象：1 年生担任・MIM 担当者

内容：MIM とは。指導内容。MIM-PM のデータ処理等について

(D 小学校) 日時：平成 25 年 4 月 30 日

講師：小野次朗先生・河崎靖子先生・木村志保先生

対象：1 年生担任・MIM 担当者

内容：MIM とは。指導内容。MIM-PM のデータ処理等について

(E 小学校) 日時：平成 25 年 5 月 10 日

講師：小野次朗先生・河崎靖子先生・木村志保先生

対象：1 年生担任・MIM 担当者

内容：MIM とは。指導内容。MIM-PM のデータ処理等について

MIM 校内研修

(A 小学校) 日時：平成 25 年 5 月 7 日

講師：木村志保先生・河崎靖子先生

対象：1 年生担任・新任教員・転任教員・支援委員会メンバー

内容：MIM とは。指導内容。MIM-PM の演習

(D 小学校) 日時：平成 25 年 6 月 17 日

講師：小野次朗先生・木村志保先生

対象：D 小学校職員

内容：MIM とは。指導内容。MIM-PM の演習

(C 小学校) 日時：平成 25 年 7 月 8 日

講師：小野次朗先生・木村志保先生

対象：C 小学校職員

内容：MIM とは。指導内容。MIM-PM の演習

(A 小学校) 日時：平成 25 年 10 月 1 日

講師：小野次朗先生・木村志保先生

対象：A 小学校職員・各小学校教職員

内容：読みに課題のある 2 年生の事例から、通常の学級における
読みへの支援について検討する

(E 小学校) 日時：平成 25 年 11 月 28 日

講師：小野次朗先生・木村志保先生

- 対象：E 小学校職員・各小学校教職員
内容：MIM とは。指導内容。MIM-PM の演習
- (F 小学校) 日時：平成 25 年 12 月 18 日
講師：小野次朗先生・木村志保先生
対象：F 小学校職員
内容：MIM とは。指導内容。MIM-PM の演習
- (B 小学校) 日時：平成 26 年 1 月 22 日
講師：小野次朗先生・木村志保先生
対象：B 小学校職員
内容：MIM とは。指導内容。MIM-PM の演習
- (G 小学校) 日時：平成 26 年 2 月 5 日
講師：小野次朗先生・木村志保先生
対象：G 小学校職員
内容：MIM とは。指導内容。MIM-PM の演習

平成 26 年度

MIM 担当者会議

1 回目 MIM 担当者会議（研修を含む）

日時：平成 26 年 4 月 4 日

講師：小野次朗先生・木村志保先生

対象：全小学校 MIM 担当者・新 1 年生担任

内容：MIM とは。指導内容。MIM-PM について。今後の MIM 指導の進め方について

2 回目 MIM 担当者会議

日時：平成 26 年 8 月 5 日

対象：全小学校 MIM 担当者

内容：MIM 指導の進捗状況。児童への対応。9 月からの取組について

3 回目 MIM 担当者会議（予定）

日時：平成 27 年 2 月 12 日

対象：全小学校 MIM 担当者

内容：MIM 指導の進捗状況。今年度の反省。次年度に向けて

研修

(A 小学校) 1 回目研修 日時：平成 26 年 4 月 17 日

講師：子ども理解コーディネーター・A 小学校支援教育部

対象：新任・転任教員

内容：MIM とは。指導の実際。本校の MIM 指導計画について

2 回目研修 日時：平成 26 年 7 月 17 日

講師：子ども理解コーディネーター

対象：教職員

内容：特殊音節について

(大阪狭山市教職員研修)

日時：平成 26 年 8 月 7 日

場所：大阪狭山市役所 会議室

講師：(独) 国立特別支援教育総合研究所 海津亜希子主任研究員

対象：小・中学校教職員

内容：通常の学級における多層指導モデル MIM

～すべての児童生徒を視野に入れた支援教育～

(研修参加者アンケートより)

- ・どの教員にも MIM の基本研修が必要である。
- ・MIM がどういうものか、基礎からの研修で丁寧に教えていただけてよかった。
- ・研修の回数を重ねるごとに、実際の指導がスムーズになる。
- ・4 月当初に新 1 年の担任に研修をして頂き、担任として取り組みやすかった。

5 MIM に関する事業についての現時点での成果

- (1) 平成 26 年度、市内の全小学校低学年で MIM 指導の取組が実施できた。
- (2) 特殊音節の考え方が統一できて指導しやすくなった。
- (3) 読み書きに課題のある児童を早期発見できるだけでなく、個別指導につなげることで定着を図ることができた。また、教職員の意識が高まり、授業の工夫にもつながっている。

6 MIM に関する事業についての現時点での課題

- (1) 今後も MIM の取組をすすめていくうえで、各学校においては MIM 教材の共有化や、授業の予定を組んだり、MIM-PM データを管理したりする MIM 主担者を中心とする推進組織の強化が必要である。
- (2) MIM の取組に学級間での差があること。

7 MIM に関する事業を進めるにあたって期待すること

- (1) 学年、学校共通の指導方法なので、中・高学年になって、担任が変わっても同じやり方で復習できるようになればいい。
- (2) MIM の取組が進んでいくことで、読みの力の高まりとともに、基礎的な学力の定着や向上につながる。
- (3) MIM 推進のための市としてのシステム作りや教材の開発が進んでほしい。
- (4) 低学年からの児童の特性の実態把握により、早期に支援ができること。

8 MIM への要望

- (1) テレビに映せる MIM のデジタル教材（タブレット等でも利用可能なもの）があればより理解しやすくなる。
- (2) 算数指導に利用できる MIM の開発。

9 今後 MIM に関する事業を進めようとしている自治体へのアドバイス・メッセージ

- (1) 月ごとのデータが出ることで、定着していない部分がわかり、指導に生かすことができる。
- (2) 「作文の表記間違いが減った」「算数の文章題がすらすら読めるようになった」など、教員が指導の効果を実感できる確かな指導法である。
- (3) 校内に MIM を推進する担当を決めて、組織的に取り組まないと推進は容易ではない。
- (4) 本市では、大学教授が MIM の推進全般に関わってくれている。また、市の子ども理解コーディネーターが MIM に精通しており、各小学校を巡回し研修や相談にあたっている。こうした取組が全小学校でのスムーズな取組につながっている。

*資料

資料 1 : MIM 実施に関する方針

資料 2 : 年度初めに各学校が保護者への理解啓発用に配布する MIM の説明

(文責 : 大阪狭山市教育委員会学校教育グループ・課長補佐 中川 浩一)

平成 27 年度 MIM 実施について

目的：読みの流暢性を確保することにより、読解の力につなげる

読みに困難をもつ児童に早期に気づき支援を開始する

(読むことは、学校生活や社会生活において必要とされる基本的な力であり、小学校においても学習全体に影響する。現代の社会をよりよく生きるための重要なスキルである)

方法・つまずきやすい特殊音節の指導を継続的に行い、定着を図る

(平成 26 年度より大阪狭山市内全小学校で実施)

- ・児童の実態を MIM-PM によって定期的に捉え、その実態に応じた適切な指導をすすめていく

任務分担

☞ 1 年担任がすること

- ・ MIM 指導・採点・返却 (PM 返却時に再活用) 入力・考察
- ・ 2nd, 3rd の指導等

☞ MIM 主担当がすること

- ・ データの管理・考察・教材管理と次年度への引継ぎ・PM の印刷等

☞ 通級指導担当がすること

- ・ MIM-PM

方針・MIM は全小学校において管理職を含む全職員の合意のもと推進する

- ・各校に MIM 主担当を置く (原則：学年内におく)
- ・MIM 指導は主として 1 年生を対象に行う
- ・2 年生は原則 4 月・7 月・11 月に PM を行い、実態に応じて指導を行う。
- ・MIM 連絡会 (各校主担当 + 市教委) を開催する 4 月・7 月・2 月
- ・MIM に関する研修を行う

【研修内容】

① MIM についての理解 時期：7 月までに

対象：管理職・学力向上担当者・研修部長・新任指導担当・新任・転任者・
1 年生担任 ※MIM 推進ハンドブックの配布

② MIM を実施するための実務研修 (データの活用等) 時期：4 月～5 月

対象：1 年生担任・MIM 担当者

- ・データおよび考察の扱い

☞ 1 部各校にて管理 (その後の学習や支援に活用するため)

☞ 1 部を教育委員会の担当指導主事に提出

(全体の傾向を把握し、指導のあり方等の開発に活用するため)

☞ 集約は通級指導部会を利用して行う

- ・各校、5 月の学校だよりにて保護者に周知する

M I M導入に関する， 5月の学校便り等でお知らせする文章

多層指導モデルM I M（ミム）を導入しました

1年生の「こくご」では，言葉の学習が大変重要な課題です。

本校では，文章がスラスラ読めるようになることを目指して，子どもたちが特につまずきやすい「特殊音節」に焦点をあてた指導(多層指導モデルM I M)を導入しております。

早期に，言葉の習得のつまずきに気付き，早期に支援を開始できるものと期待するところです。

教育専門機関と連携して，効果的な指導が提供できますように努力していきたいと思えます。保護者のお力をお借りすることもあるかと思えます。日常の宿題や長期休業などの宿題のなかに，言葉の学習がありましたら，家庭でも教えたり，励ましたりして子どもたちのやる気を支えてやっていただくことを，お願い申し上げます。